

水道施設の耐震化状況（令和3年度）

本市水道事業では、平成12年度から地震対策として、施設及び管路の耐震化を推進しており、地震等の災害時においても安定した給水体制の確保を目的に、水道施設の耐震化に取り組んでいます。

令和3年度末時点における各施設の耐震化状況は以下のとおりです。

①浄水施設（5箇所）の耐震化状況

全施設能力 ($\text{m}^3/\text{日}$)	耐震化施設能力 ($\text{m}^3/\text{日}$)	耐震化率 (%)
141,682	141,682	100.0%

※ 本市の自己水源は良質な地下水を汲み上げて使用しており、沈殿・ろ過といった浄水処理を行わなくても水質基準を満たすことができるため、浄水施設は消毒のみの施設として接合井を対象としています。なお、浄水施設能力は井戸の公称能力としています。

②配水池（27池）の耐震化状況

全有効容量 (m^3)	耐震化有効容量 (m^3)	耐震化率 (%)
112,335	112,335	100.0%

③基幹管路の耐震化状況

総延長 (m)	耐震適合性 のある管延 長 (m)	耐震管延長	耐震適合率 (%)	耐震化率 (%)
		(m)		
236,020	122,866	59,112	52.1%	25.0%

※ 基幹管路とは、水道施設にとって重要な管路であり、導水管・送水管・配水本管をいいます。本市では、口径300mm以上の配水管を配水本管としています。

※ 耐震適合性のある管とは、地震による地盤変動がおきた場合でも、地盤によって管路の破損や継手の離脱等の被害が軽微な管をいいます。